

より高い理想
より強い意志
より清い心

6NJスカウト会議スローガン



ち か い

私は、名誉にかけて次の三条の実行をちかいます。

- 1. 神(仏)と国とに誠を尽くし、おきて、を守ります。
- 1. いつも、他の人を援けます。
- 1. 体を強くし、心をすこやかに、徳を養います。



地区大会開催に当って 浜松地区委員長 内田 時世



昭和49年度浜松地区大会に当り、御挨拶申し上げます。

心配しました天候も(秋晴れのすばらしい今日)浜松地区のボーイスカウト・ガールスカウトが一堂に会し楽しい一日を過ごすことは誠によき事です。

御来賓の皆様には、御多用の中を私共の為にわざわざ、お出掛け下さりまして有難うございました。

昭和30年11月20日浜松地区が結成され、地区協議会長であった今は無き、私の父が常に心にとどめていた言葉に「相手の身になって考えよう」という言葉があります。

此の言葉は、12の「おきて」の実行にあたって、すべて当てはまる言葉だと思います。誠実であることも、忠節をつくすことも、人の力になることも、友誼に厚いことも、礼儀正しいことも、すべて相手の身になって考えることから始まることでもあります。

スカウト運動の目的は良き公民となるための基礎を青少年に植えつけることにあると言われております。その目的の為に、子供に奉仕する大人の運動ともいわれております。

心からお礼を申し上げます。

本年夏、遠く北海道の地に於て挙行されました第6回日本ジャンボリーに、地区を代表して160余名のスカウトが参加致しまして、無事その行事を終了いたしました事は、皆様、御承知の通りでございます。

尚、本年も海外にスカウトを派遣いたしました。

日本ジャンボリーに参加したスカウト諸君/海外派遣のスカウト諸君/諸君は夫々の立場で数多くの貴重な体験を得た事でありましょうし、今後のスカウト活動に益することが多々あったものと信じております。

私達スカウトは、日頃の生活の中に自分でちかった3つの「ちかい」と12の「おきて」を実行しているはずであります。「スカウトは自分にきびしく、他人に寛容であるべきである」と思います。

私共は一人でも多く、子供に奉仕する大人の仲間を増やしてゆく必要があると存じます。

御来賓の皆様を始めとして役員、リーダーの皆さん、スカウト保護者の皆様、皆様方の奉仕のお蔭で浜松地区は益々栄華の道をたどっております。是非、今後とも此の上にも善意の御奉仕をお願い致しますと願っております。

スカウトの諸君も今日より、明日へとすばらしいスカウターとして立派な公民となるよう、努力と精進を惜しまないで下さい。今日の大会を元氣一ぱいスカウトらしく過すことを願っております。たのしくやりましょう。

終りにあたって例年のように、前日より御奉仕戴いている、竹村野営行事委員長を始め、皆様此の席をかりてお礼申します。今日もよろしく願いたします。



ボーイスカウト浜松地区協議会長 内田六郎先生 御逝去

昭和49年 9月30日

ボーイスカウト浜松地区協議会長、浜松第17団育成会長（前浜松第4団育成会長、前浜松地区委員長、元静岡県連盟理事）内田六郎先生は昭和49年9月30日午前2時40分、脳血せんのため81才を以て逝去せられました。

先生は昭和30年7月浜松第4団の結成に尽力せられ、自ら育成会長として御活躍、さらに同年11月浜松地区協議会創設と共に地区協議会長に就任せられました。

当時、弱体であった浜松地区の発展のために寄与され、今日の隆盛を礎きあげた御功績は誠に多大であって感謝に堪えません。

また当地方の青少年の健全育成のために尽されたお力も誠に偉大なものがあります。そのため浜松市は浜松市名誉市民として讃えられた先生に対して、10月19日午後1時より浜松市体育館に於て、浜松市民葬を行い、お別れすることになりました。

1時、全市に響き渡るサイレンを合図に黙祷を以て始まり、浜松市歌斉唱、氏の生前の功績を「偲ぶ草」に依って紹介せられ、つづいて平山葬儀委員長の祭文は温厚な先生のありし日の姿をほうふつとさせ、功績の偉大さを改めて認識させるものでありました。

古橋市議会議長、県知事代理の諏訪副知事、友人平松実氏の弔辞のあと、市政60周年の際、平山市長と先生の対談の録音と48年1月6日、市美術館で行われた「ガラス絵」についての講演の際の一部録音が場内に流れる頃は葬儀も最高頂のふんい気に包まれ、つづいて追悼演奏、追悼詠句が行われました。

この日浜松地区のスカウトの父とのお別れに参加したスカウト関係者も数多く最後は代表スカウトたちによる「永遠のスカウト」の合唱に依って、スカウト運動に捧げられた氏の功績をた、え会葬者全員の献花に依って2時15分静粛なうちにも盛大に葬儀のすべてが終了しました。

残されたスカウト関係者は先生の偉業の後をおうけして恥ずかしくないようにと夫々心に秘めてお別れしたものと思います。

尚先生の歩まれた御足跡を「偲ぶ草」、より転載させていただきます。

（故・内田六郎先生の思い出話等の寄稿をお寄せ下さい。）



氏は明治25年12月23日静岡県榛原郡吉田村吉田（現榛原郡吉田町）の川本曾一郎氏の参男として誕生されました。

明治44年3月に静岡県榛原中学校を卒業後、国立第8高等学校へと進み、大正8年11月には京都帝国大学医学部を卒業この間、大正6年7月26日浜松市田町の内田令太郎氏と婿養子縁組をされました。

大学卒業後大正11年12月からは、浜松市田町で産婦人科病院を開業している養母内田みつさんと共に医業に精励、以来医療の進歩向上のために努力されました。また、そのかわり、本市の社会教育委員会委員長、文化財審議会会長、美術館名誉館長など幾多の公職に就かれ、社会教育の振興に、美術文化の向上のために大きな力を尽くされました。

昭和37年市勢振興の功勞により浜松市長表彰を、翌38年には教育文化の功勞により静岡県知事表彰を受けられたほか、昭和46年浜松市議会の議決を経て浜松市名誉市民に推挙されました。

また、国からも昭和42年保健医療の功勞により勲五等双光旭日章を授与されました。

そして、このたび特旨をもって従五位勲四等瑞宝章を賜りました。

故人と50年来の友だちである平松実さん（浜松市美術館協議会会長）は「内田先生は、温和な中にもシンの強いものを秘めていましたが、ウソのつけない誠実な人でした。そして常に一市民の立場でものごとを考え、まわりの人の幸せを願っていました」と内田さんの人柄を語っています。

功績のあらまし

医師会役員として活躍

大正8年、京都帝国大学医学部を優秀な成績で卒業、大正11年からは本市で産婦人科病院を開業している内田みつさんのもとで医業に精励されました。

すぐれた医術をもって産婦の処置あるいは妊婦の指導をするかわり、常に進歩する医術の研究に没頭され、いつも最



新の技術をもって施療に心がけられました。

以後、浜松市医師会議長、日本医師会代議員、国際産婦人科連合会会員など各種の役員を歴任し、医学の進歩、発展に多大な貢献をされました。

社会教育の振興を

昭和25年からは本市の社会教育委員会委員長として、また32年からは図書館協議会委員長として、社会教育全般の振興に力を尽くされました。

特に成人学校や婦人学級・青年学級の開設と、移動図書館の考案など、本市の社会教育の振興に大きな基礎を築かれました。

また美術の振興や私学の発展に貢献されたほか、ボーイスカウト運動の推進にも活躍されました。

文化財の保護にも

昭和24年、伊場遺跡第一次発掘調査については、みずから委員となり、その調査がじゅうぶん効果があるよう努められました。

また、蜷塚遺跡保存会の会長として、復元家屋や収蔵庫の建設など、全国にも誇り得る蜷塚遺跡の保存に力を尽くされました。特に昭和34年に国の史跡指定を受けることができたのも、故人の功績に負うところが多大でありました。

美術の愛好家としても

故人は美術の愛好家、収集家として、民芸品の発掘や発見に多くの業績を残されました。

全国的にも高く評価される「ガラス絵」「浮世絵」「大津絵」や古地図など貴重な作品を収集、所蔵され、全国各地の美術館や市立図書館などを利用して、これを広く公開されました。また、「家蔵江戸版和蘭陀絵」や「ガラス絵」などの著書を発刊、現在では、美術の研究にはなくてはならない資料とされています。

なお、本市が市制施行60周年を記念して建設した美術館に対しては、ガラス絵239点や広重の版画252点を寄贈され、美術館に偉彩を添えられました。

このほか、各種の公職につかれ、公共のために尽くされた功績は誠に大きく、市民の誇りとして永遠にたたえられることでしょう。

第6回日本ジャンボリー回顧特輯

浜松第12回望月馨氏の記録帳から 或る派遣隊員の記録

7月29日(月) 晴

浜松地区派遣隊員出発(浜松～青森)
朝の多忙な時間のお出立にもかかわらず関係者・ご家族等多ぜいの人の見送りを受け車中の人となる。

静岡、東京、上野等乗換え拾有余時間を経て深夜の青森に。しかも雨の青森棧橋はJamboree参加のScoutであふれていた。乗船後(津軽丸)

〃0時20分、遠州健児恙がなく雨の津軽の海を渡り北斗の地へ向う、と打電する。

船上のデッキに出て見る。雨で寒い。下の船窓からこぼれる光に映えて白波が足元に見えるのみ、海峡の雨の夜は暗黒だ。船内は逆に明るく地区派遣隊員全員元気。手まめに家族や友達に筆をとるもの、早目に寝たものもある。

7月30日(火) 曇後雨

函館～千歳原に入る(Jamboree会場到着、設営)

3:56 津軽丸は暗夜の、しかも雨の函館に接岸。

誰も彼も寝不足の顔、棧橋からホームへと進む。ホームにはJ6N・J来道—Scout観迎の垂れ幕が白く目にしみる。

定刻、急行「おおぞら」はジーゼルの排気音高らかに我々来道第一歩を乗せて発車した。

白らみかけた車外はいつしか内浦湾(噴火湾)の海岸沿いに進む(室蘭本線)車内は、すっかり疲れたScoutが、はげしい震動にもか、わらず全員寝いききを立てて静かなものだ。

東室蘭駅構内でS・Lが白煙を吐いて動いている姿を見て2～3のScoutから喚声があがった。

苫小牧はバルブの産地、巨大な王子製紙の煙突は、上部はすっかり霧の中にとけこんで見えないが独特の臭気は、静岡県富士市あたりと同様、車内でも分におう。

8:00 苫小牧着、バスに分乗、会場へ向う。雨は止んだが、白い霧で遠望不可。しかし、さすが広大の原野に巾広い自動車道は延々と伸びきり、時折、牧場が散見される。常に見馴れた浜松周辺の眺めとは違い、各家並には防寒用ストーブの煙突が勾配の急な屋根のむね高くそびえる。又、牧場の木立の影からは「さいる、のスマートな屋根が見えかくれするのには、やはり今、北海道にいるのだなあと感ずる。

9:10 会場に入る。県連本部で内田野営長より浜松は最高の場所だと云われ

る。軽井沢の別荘地の様だとも云われる。午後、各隊荷物の受領、設営にかかる頃には大地は背後に灌木の林を背負い、手前は火山灰土の水はけのよい平坦地で快適な野営地になった。Scoutの居住テントは林の中にそれぞれカラフルな色彩を生み出し、各隊の本部は手前の平坦地に設営されたのだ。隊ごとに独特なゲートを作り出す。お国じまんの看板もある。やはり遠州ベンで我32隊は、きっせいきっせいをとり上げた。こんな頃から雨足は我々の作業にじゃまをしだす。

寝不足で疲れたScout達の作業は相当苦痛なものだと思ふ。誰も彼も、黙々と動いている。心なし沈み勝ちな身心



に鞭打つて。
18:00 国旗降納と同時に夕食の席につく。県連よりスカーフ、ガイドブック、バイオニア章の参加カード等が配付される。

全員元気。明日の観察旅行を楽しみに早目に天幕に入る。

JH2PVL～JH2ALI 交信不可。

7月31日(水) 曇時々晴

観察旅行
早朝起床、諸準備をと、のえ観察旅行に出発する。浜松地区は、当初よりD洞爺湖コースを選定しておいた。各隊それぞれ所定のバスに分乗出発する。それぞれ課題を与えられた。会場を西に千歳市内に入り、道央自動車道を大曲を経て札幌へと北上する。道は平坦な高速道で、月寒から更に札幌市内をかすめる様に西へ、真駒内の冬期オリンピック会場を右手に見て、真駒内川を逆上するよう南下する。道路の左右は一変し、山が迫り豊平川の分岐点から豊平川にそって定山溪へと進んで行く。ガイドさんの案内に車内は北海道べんと遠州べんとの比較で面白く、又にぎやかである。定山溪温泉は安政4年(1857)この地方を調べていた松浦武四郎が発見したといわれるが、明治の初め小樽の近所に草庵を結んでいた定山という僧が病人を救う為に浴場を開いたのがこの温泉の始まりだとガイドさんの言葉だ。

道路はクロソイド曲線に描かれた美しく

しいカーブを持って溪谷(薄別川)や山腹を抜け、総工費58億円にのぼると云う有料道路で1億33万円の巨費が掛つているとの事である。トンネルの出入口には運転手の為のステンドグラスをはめ込んだりして、金の掛った事を証明している。秋の風景は更に一段と美しい事であろう。札幌岳、狭霧山、大二股山、小白山、等道央・道南の山々にかこまれた緑は目に痛い。小喜茂別岳、逢萊山に抱かれたような中山峠に掛って休憩、四周は肌寒い白い霧に包まれて、暖を求めに汲々である。ジャガイモ、トウモロコシ焼、そば等。中山峠は海拔 836m(国道 230)で、明治2年当時の費用で15,000円を掛け、東本願寺が札幌から峠へ仏教を広める為に28里の道を開いたものだと云うあたりは我々には珍しい蝦夷松、トドマツの常緑高木林に囲まれた山並である。蝦夷松は枝を下に、トドマツは枝を上にと相違点もガイドに依って知らせられる。休憩後、車は一気に喜茂別川沿に南下、山地から草原へと出る。放牧場や農場が続く、喜茂別の町へと入る。旧鉄胆振線を渡り、道は又高原の様ぞうを呈する。車は、いつか洞爺湖が左手の車窓に見えかくれし始めた。洞爺湖の西岸から湖を回る様に南岸にそって道は降り、洞爺湖温泉町に至る。昼食の指図があり、旅館の大食堂で済ます。一部の我々は話のたねにと入浴する。本州の汗とホコリを洞爺の湯に流す。

昼食後、羊蹄に乗船、湖上遊覧を楽しむ。一般のお客とも同船、デッキの片隅には新婚組も散見出来る。我々は時間の関係上、中島上陸は不可。従って森林博物館、縄文人遺跡、土器弁天島の様子はガイドの説明にたよるのみ。洞爺湖は、典型的なカルデラ湖(火口湖)である。



湖面標高約83m、東西約10km、南北約9kmのほぼ丸い輪郭で、その面積70平方kmに深さ 183m、透明度17m、別名「明鏡」と云はれ、湖水に浮かぶ美しい曲線の緑の中ノ島。北側にそびえる秀麗な羊蹄山の姿を投影しとあるも当日は残念ながら

その趣きはなく、白霧の中に溶け込んで見えず。湖岸の山々と南に有珠岳、昭和祈山などの変化に富む山のみ中天を突き、噴煙を吐いているのみである。たゞ船内で購入した記念案内によって美しくさを知るばかりである。

昭和祈山へと一行は足を延す、こゝは昭和18年(1843)から昭和20年にかけて地震をくりかえし、地割れがして生成された固まった熔岩が地中からもちあがっ



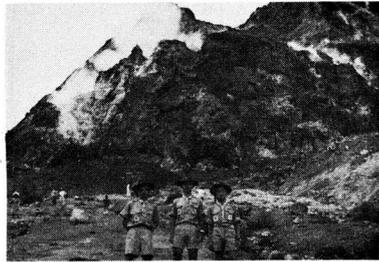
中山峠頂上にて

てできたペロニーデ(尖頂丘)であること、その生成状態を人々がよく観察できたことなどは、世界でも珍しい例として学界の注目を集めた。今もなお噴煙活動をにつけており、大自然の神秘と科学する心を開く世界的な活火山として訪れる人を更に増やして行く事だろうと思う。各分乗車ごとに、この昭和祈山を背景に記念の写真を撮る(プロ)

かつて約10年昔この地を訪れた折と比較して格段の相違に驚く。ただ一つ心に残る気持は、同じ日本人なのに、たゞアイヌと云う名の元に見世物的、いや観光の呼び物にされ、本州の旅行者の前にたゞ何もせず先祖の家屋の模造にたゞずみ炉端で煙草をすい年老いて、そのまゝと云った姿には見せる方も見る方もと云った義憤を感じず。之は我々のみでなくScoutの中にもアイヌの悲哀を云々するもの多々あった事を信ずる。大自然の営みが、たんにその一角に活動の口火を切った事は万人が認めるが、そこを訪れる人達が、この大自然の如何に巨大な力を持っているかを信じようともせず紙くず、ジュース、コーラーの空きカン等を散らかせておく気持、登りながら同行のScoutに話して見た。私、同様に足元の空きカンを持参のビニール袋に納めていたが、決してユニホーム姿の時だけでない様祈りたい気持で一杯だった。店頭でアイヌの彫ったと云はれる土産物が並べてある。又、昔の生活用具を並べてあるが、それやこれやで観光客を集めて生活の一助にしている事実とScoutほどの様に感じたか、人類である我々が同一人類をその様な目で見るとは痛切に悲哀を感じるのみである。

壮瞥(そうべつ)の町を出発、車はぐぼない弁景 黄溪 を経てオロフレ山麓(1231)のオロフレ峠に差し掛る。いよいよ今日の最後の目的地・登別地獄谷を残すのみとなる。出発時間の都合では省

略される危険のあった場所だが、出来るだけ多く、そして知れる範囲は出来る丈と云った気持が突ってか何んとか行けそうである。オロフレ峠迄の道程には故障箇所もあったが、昭和祈山のふもとに新横綱「北の湖」の生家がある事は忘れられぬ旅情をかもし出す。先を急ぐ…加車山(898)の山すそ、来馬岳(1040)の谷あいを下ってカルルス温泉から新登別温泉へと来る頃は、車外の眺めは死の町の様そうを示す。夢破れて何んぞ、ガイドさんはその点を上手に説明してくれた。倶多楽湖を頭上に控え、谷間にひしめき合った様な感じの登別温泉の町へと入ってきた。登別川の上流、硫黄の(ゆで卵の様な)臭気のこもる地獄地見学へと車は進んで行く。眼下に白煙をあげる大溪谷が展開する。6億年前の爆裂火口の跡と推定されるそうだが、その広さ約3万坪、岩丘の各所から噴出する湯煙りは壯観を通り越し恐ろしい。この附近の砂まじりの硫黄を湯の華と称して販売している店もある。大局的に自然の破壊者であり、国立公園と云はれる理くつに頭をかしげざるを得ない。その後、車は太平洋



昭和祈山中腹で

沿岸登別に出て、海岸線を白老町を通り国鉄・室蘭本線と平行し苫小牧市に出、Jam Boree 会場へと帰途についたが、Scout達はそれぞれに今日の道南の旅をかみしめていた様だった。

こうして、急しい一日であった。しかし私達は北海道と云えば、アイヌ先住民族の事についても知らなくてはならないと思う。出発前に調べたアイヌの大叙詩「ユーカラ」これはアイヌ民族は壮大な叙事詩ユーカラで、かれらの神や英雄をうたいあげたとの事だ。イリアヌ、カレワラなどに匹敵する民族の文学であるからだ。観察旅行では、とてもその時間もない。再度、渡道の砌に充分落着いて調べ勉強したいものと感ずるばかり。

北海道の地名…「ナイ」と「ベツ」が付く所が非常に多い。「ナイ」は沢を表現し「ベツ」は川を表現するとの事だ。これもガイドさんよりの耳学問である。

8月1日(木) 曇時々晴

第6回日本ジャンボリー開会式
観察旅行の疲れから起床は遅い。今日は設営の続きを午前中に済ませる予定があった。本部に近い第四班の半数以上

が「かぶれ」に掛った。漆によるかぶれで顔、両うでに皮ふ炎を起している。各班同様に約半分の隊員が「かぶれ」ている。治療の為に配付のぬり薬が不足の有様であるが「かぶれ」にのみた、られた外は全員元気、設営に精進している。

昨日、我々が観察旅行に行っていた留守中に12団S S隊・川端君が自転車に到着した。彼は浜松から名古屋に走り、フェリーで苫小牧に上陸、雨の中を会場入りしたそうである。其の為、彼の自転車のおかげで我々随分楽をしたものだった。又、昨日は大変な雷雨で落雷もあったそうScoutが一名「けが」をしたとの事も耳にする。

昼食後、開会式迄の半日休憩とする。各Scoutに手紙を出す様話す。洗濯を始めるもの、シャワーをあびに行く者等々のんびりムードの半日だ。

「かぶれ」患者引率、県連へ薬品受領及治療に行く。開会式にJam Boree 旗手隊旗手、国旗旗手に「かぶれ」の多いのには平口した。JH2 PVL 交信に基地へ行く。結果不可

開会式18:30所定の位置につくが、誠に残念ながらマイクの故障で声は完全にとれず、たゞ時折の声が耳につくのみ。しかし、光の輝き、明暗等素晴らしさは筆舌に記し難い。渡辺昭新総長の照会と推戴、新総長のあいさつが思う様に聞えなかったのが残念だ。

開会式を記念にと我隊・鈴木副長が録音をとっていたが、その録音機の側で某リーダーが「おなら」をした。その発射音がとてもよく録音されている。



入場行進の出発点

6NJ開会式シュプレヒコール

(序) 偉大なるスカウト 松浦武四郎が
この地を北海道と名づけた
この大地に開拓のクワを入れて風雪百年
ここに スカウト集う
スカウトよ ジャンボリーの開幕
を祝い 輝く未来に向けて
声高らかに シュプレヒコールを
送う

(復唱) エゾマツのように 高く
ヒグマのように 強く
スズランのように 清く
大自然に 感謝を
たがやそう 大地を
Jamboree
あすを きざこう



ジャンボリー旗群

8月2日(金) 霧雨

友情ゲーム

「BOYS, BE AMBITIOUS」;

WILLIAM. S. CLARK

It means to be ambitious not for money or the evanescent thing. Which we'll call fame but for the attainment of all that a man ought to be.

Let us keep this famous phrase in mind for our scouting;

「少年よ大志を抱け」北海道開拓パイオニアのひとりウィリアム・スミス・クラーク博士の言葉を友情ゲームの合言葉にしたとの事。早朝友情ゲーム開始前にかぶれ、患者のひどいのを中央救護所へ治療に連れて行く。又比較的軽い連中は野営区センターの救護所に廻すが、開院9:30の為、友情ゲーム終了後にとする。

各Scoutは、友情ゲームのカードを胸に出掛けていった。居残りのリーダーは、それからが大変だ。Scoutは、帰えり次第昼食、午後のサイクリングとパノラマトレイルに出掛けなくてはならない。その昼食準備。一部は霧雨の中、洗濯するものもある。

昼食後、サイクリングとパノラマトレイルに出掛ける。引率リーダーで私はパノラマトレイルに出掛ける。

時間の都合でGHQに行事部を尋ねて見た。隣の売店で札幌ラーメンを本場の味と味って見た。同行のScoutはおいしいと盛んにほめていたが?

E-11 出発点に想定文が出ている。最近Jamboree会場の東部の原野一帯に「くま」があらわれて付近の農家の作物をくいあらし、農民や家畜にまで被害を

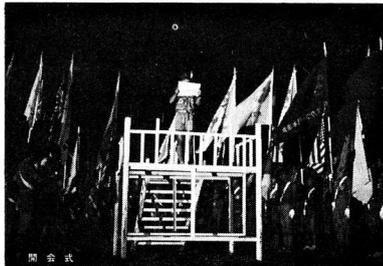


開会式

およぼそうとしている。そこで地元ハンターが「くま狩」をおこなったが、その後、彼方へとくらましたまゝである。千歳市では付近の農民の不安をおさめるため「くま」の行方を探そう諸君達に依頼があったので、その発見に全力をあげてほしい。もし「くま」の足跡や、ふんを発見した場合は、ただちにスタッフに連絡してほしい。

〈課題〉1.木の葉を3種類採集せよ。2.展望台でScoutソングを一曲合唱せよ。3.全コースを2時間以内でまわれ。

これは会場から場外へのハイキングコースで原野を進み、小高い丘より会場を眺め、支笏湖周辺や千歳空港を観察したらとの事であるが霧雨でそれは不可。かすかに会場手前のカラテントが散見されたのみ。



開会式

当初、全員サイクリングに行かせる様申込んでおいたが出発際に人員が減らされ、その行事への割りに各リーダーてんてこまい。抽選ではずれたものは次回、最優先にと頭痛鉢巻。

今夕は石狩ナベ。でっかい鮭をぶつぎりにする。なかなか味あわれない感あり。

夜、自由交換。Scoutはそれぞれ交換品をかゝえて外国キャンプへ出掛けていった。各班報告にアメリカScoutにこけにされたとか、けちであるとか書いてあるが、先方のScoutも今夜の我隊Scoutを何んと思っていた事であろうか。

現地からの便り

望月 馨

前略、渡道2日目、キャンプ設営完了午後より休息でシャワーをあびたり、洗濯したりで、ゆっくり休み夕方より開会式を挙行するばかり。昨日は道南旅行で一日中車にゆられ中山峠、洞爺湖、湖上遊らん、昭和新山、オロフレ峠、登別温泉、地獄谷を廻って帰りました。洞爺湖温泉では湯に入り、当分入れぬお風呂を充分味わいました。

義ちゃんがカブレで顔から全身ホウホウ云って居ります。昨夜の当番でマキの中にカブレの木が入っていたのだと思います。外に日尾、薩川、喜田も同様、その外には何も申し分なく天気です。

望月 義朗

完全に設営を完了しました。

体調は快調ですが、ウルシの木のため、体中がかぶれました。到着後2日間は、ぐずつきがちな天気でしたが、開会式の今日は雲も切れ、じめじめしていた、かん境もさっぱりしたものになりました。

会場は、火山灰よ土で、我々第3野営区は、雑木林の中ですが、3分の2以上の野営区は朝ぎりと同じような土地です。ではまた。 8月1日

8月3日(土) 霧雨

サイト訪問・大嘗火

昨日同様、灰色の空、霧の様に水滴が全身を包む。自主参加は魚釣り、それぞれ釣糸や道具を持ち寄って出発していった。昼のオカズは魚(ウグイ)にするから等、声を掛け合っ出掛けが結果は0に等しい。午前中は愛知県連に半田2回の石川、富永兄弟を訪問し、サイト訪問の時間打合せをする。我々と違って半田地区の野営地は平坦な草原で設営用の資材で遠く遠行き伐木をして来るとの事で、昨夜も管理の方々とTroubleを起した隊もあったとの事である。そう云う点、我々は楽であったが、カブレの話は共通して出て来た。浜松で合流野営の際のScoutも2~3人見受けられる。当時の初級の連中だそう。話は違うが我々が彼等と浜松で野営した折も大変な雨、そして半田へ10周年記念式典に招待された折も雨、ただ我々12回の10周年式典に彼等が訪れてくれた折のみ晴。今日こうして逢っている折は霧雨が淡日に移行したばかりで、雨には縁のある両隊である。第13回世界Jamboreeのインド野営地で、この半田2回の富永君に逢ってから今日迄、色々な面で連絡し合い、やはり又Jamboreeで友隊として互に訪問し合う事が出来たのも、お互いが、Boy-Scoutとして同一目標に努力しているものと信じ、将来長く友隊として行きたいものと誓い合うのみ。

約束通り15:00頃、富永君が2~3のScoutを同行、我々サイトに来てくれた。

午前中、長野県連へも行き、午後Scoutを連れてサイト訪問をする事を約しておいた。各隊パイオニア賞の取得の為事前の打合せを充分しておかないと留守宅訪問になってしまう危険性が多い。我々が訪問した折も、ちの、の隊が残っていた。霧峰隊と32隊の合流、記念にリーダーより白樺の輪切りのリングをいただいた。



長野県霧ヶ峰隊よりのリング

長野県連訪問 400人目が我々の隊でジャンケンできる。19団小沢君である。彼は非常にラッキーである。Jamboree 期間中、彼程運のついていたものはなかった。通称 Korea boy で自他共に通してしまった。400人目の記念には木彫りの般若の面で、何がよいとて両親への土産では最高だし、彼自身も好い思い出になった事であろう。前後賞に信州みそがあった。大営火 19:00。

8月4日(日) 曇時々晴

宗教行事、飯田(長野)隊の訪問を受ける。



友情ゲーム

隊より病人発生。今朝は何もせず寝ている様に指図。カブレ患者、に翻弄されかつ病人が出てしまって各リーダーは各各その処置に急い。朝礼の際にカブレを特に嚴重にチェックする。

宗教行事。それぞれ自分の宗派に分かれ出発する。シテイススイープに参加する隊員は時間の関係上、宗教行事が終了時、集合場所へ行く様にさせる。バス関係の係で鈴木副長 Scout の引率で、滝川副長補が出掛けて行く。寝袋を干し、洗濯をする。

喜田隊員の札幌の伯母家族のサイト訪問あり、せっかくだが喜田隊員はシテイススイープに参加して留守、残念がっておられ見学されて帰る。



12:00から浜松との電波が継ながるとの事で、団委員長あて伝言依頼。全員元気一杯、しかしカブレは悩みの種と。

浜松地区より見学 Scout が見え、我隊にも16団から見学方々差入れあり。

12:30明日の大集会に於ける Jamboree 旗、国旗、隊旗、各旗手はリハールサル参加の為、県連本部に集合の伝令が来る。カブレ患者を野営区の救護所へ引率の為、リハールサル参加は中止する。野営区救護所での治療は思う様には行かぬらしく、患者より不平も出る。我々も早く治す様、注射を依頼するも2~3の重傷のみ。

関係者

- 白尾成史 松にちや №12
- 柴田哲宏 鉄静浜「機」528-3
- 望月義朗 静国2.446-458
- 薩川 敏 059 №33 静66G
- 藤田哲也 静714 №39 静83G
- 小池康夫 静国2.202-55
- 石井正章 鉄静浜「工」2140-2
- 村松秀隆 静国2.082-451

外、保険証忘れ=長沼 以上。
千葉隊長とヴェトナムサイトへ見学に行き明日 Scout を連れて再度訪問を約束。
長野県連いいた隊が我隊へ来る。交観営火をサイドでやる事にする。昨夜大営火の折に申込みがあった。
千葉隊長と2人で売店に出掛けて見る。そこで食べた「ザルソバ」のおいしかった事、2枚かたづけた。

8月5日(月) 曇時々晴

Jamboree 大集会・午前中ヴェトナムサイド訪問
千葉隊長の引率で希望者達がヴェトナムサイドに出掛ける。
大集会のリハールサルで集合が掛るが、ヴェトナムサイドに出掛けた連中が帰える迄は致し方なし。昨日のリハールサルもカブレ治療、で一部のものしか行かない。

今日は午前中、各野営区とも訪問は午後だとの事であったが、千葉隊長が無理を頼んで見学させてもらったとの事。

13:00 大集会参加の為アリーナへ向う。我隊はカブレのひどいもの、全身まっ白にチンク油をぬった者は参加をいやがった為、留守番をさせる。あきす、にご用心のふれが出ていた為に充分注意する様話す。

発熱患者発生、入院さす。合計2名が入院した。いずれも40℃近い。

隊長より個人の装具は出来る丈整備しておく様、指図が出る。



地区の風揚風景

8月6日(火) 雨

撤収・閉会式

Jam Boree 期間中待した前線に熱低が吹き込み、朝からものすごい雨。我

々は閉会式には参加せず撤収を急ぐ、地区のトラックに積込みが始まれば、あわれ豪雨の中へ、パンツ迄濡れ水もした、る有様。

8月7日(水) 晴・暑い

一路浜松へ

青森上陸時には雨がかなり降っていたが、列車が南下するにつれて天候は良好になり、忘れたかの様に暑さが身にこたえて来る。超満員の車内は仙台をすぎる頃から身動きが可能となって来る。濡れた衣服は適当にかわき出し、上野では完全に乾いてしまっている。



望月 義朗

だいたいパイオニア賞を取れるメドがついてきました。

北海道の夏は、雨ばかり降ってカラッと晴れたのはたったの一日でした。どよんとした空ばかりがひろがるジャンボリー会場ですが、アリーナやスキル・オ・ラマなどでは、にぎやかな歌や音楽、民謡などが流れてお祭り気分は絶好調です。

昨日、アメリカサイトへ行ってきましたが、何もチェンジすることはできませんでした。まだ、だれともチェンジしていませんが今からガンバルつもりです。

おじいちゃん、おばあちゃん、おばさん、おじさんたちによろしく。元気です。さようなら。

8月3日

望月 馨

来道5日目、今朝も昨日の様な霧雨で始まった。北海道に来てまだ太陽に接していません。義ちゃんのカブレも昼間は良好ですが夜になるとカユミが出て困っております。本人も相当打撃でくさっております。せっかくの中学生生活の最後の北海道旅行もこんな具合では全国大会にひびいてはとただ、ひたすら申訳なく困却しております。

浜松の方はいかがですか?午後からは淡日がさし始め、サイトの横の長野県連では、ちの方々に逢い、その後、半田2団の方々が訪問して来ました。小粥さんの電波はキャッチしましたが、当方の電波はとどかない様です。今夕は大営火です。

元気は増々ですが白尾、薩川のカブレの顔がきになって浜松へ帰りにくいです。とりあえずこれまで。



派遣隊員の報告

7月29日(月) 晴(浜松～青森)

■静岡31隊(浜北3団) 沢木和雄

僕達は7時30分頃浜松駅を出て静岡に向った。2時間列車にゆられ、静岡からまた3時間ほどかけて東京へ、再び乗換上野に着いた。上野では昼食をとり特急「みちのく」を待ちながら食べた。皆の様子を見ていると自分で持ってきた弁当を食べている人は少なかった。そのかわり売店でうどんを食べたり駅弁を食べる人が目立った。

それから特急「みちのく」に乗り青森に向っている。この「みちのく」では冷房がきいてとても快適な旅ができそうである。

静岡のScout達は大へんしっかりしている。きっとJamboreeでも立派に振るまえることでしょう。

■静岡33隊 池谷智晴

夕食が支給されたとき、みんな余程腹が減っているとみえて、支給されたらすぐに食べ始めた。皆5分位いで綺麗に食べてしまった。その後かた付をした。かた付の後はどこからともなく弁当の包紙をとっておけという情報がきたので皆ゴミ箱をあさって綺麗な包紙を探した。それからは皆マンガの本を回し読みしたりして、しばらくの間さわがしかったが、大分疲れたとみえて仙台あたりでは大分静かになった。

話は変わるが、いす(座席)をベットに直してその上に寝ころがっていたら車掌が来て直せといわれたので仕方なしに直した。やはりベットにした方が楽だった。

■静岡30隊 富田

静岡発の東海1号の中で熱海の駅で乗った人が多くなって座席が空いてないのでScoutらしく老人や子供(本文小児)に席をゆづった。

■静岡32隊 伊藤正人

AM9:35静岡より急行に乗り換える。朝早くから起きたせいか、今から昼飯にくらいつくScoutが多くみられる。又いねむりをして東京まですごすつむりのScoutもいるようだ。

PM1:00上野駅に着く。浜松から各駅に止まったのだが、一度位しか売店の人が列車に近づいてくれなかったのでこの休憩にとScout達は売店におしよがり上野駅の売店係の人はとても急がしそうでした。又ここにくる迄の山手線では、ぎゅうぎゅうづめでサラリーマン(東京)の苦労がわかるような気がした。

PM3:00 2時48分発の特急「みちのく」、号にのる。さっきの東海道線でのたいくつさでこりたのだろうか、上野駅でマンガや週刊誌をたくさん買い込んで読んでいたので車内はとても静かでした。今のところ気分の悪くなつたScoutもなく、まずまず安心。

7月30日(火) 曇後雨(函館～千歳原)

■静岡30隊 富田

現地へ来たが北海道とは思えない。北海道なのに雨が降ったので驚いた。

■静岡32隊 伊藤正人

AM4:00函館に着く。雨に濡れながら「おおぞら」号に乗る。Scoutの中から駅のホームに止まっていたSLを見て「僕はじめて見たよ」と言う声がきかれる。

AM9:10Jam boree会場に着く。多くのScoutがまだねむそうな顔をしている。設営は皆上下の位の差があまりないのでライバルと言っても良いくらいみんながまじめにやっている。しかし隊長に言わせると「Cub並だなあ」と言う。はたして実力もここまでであろうか。

■静岡33隊 池谷智晴

千歳原について時「広いなあ」と思っていた。バスはどンドン進んで行き、止まった所も広い所なので「ここなら楽しいなあ」とよろこんだ。しかしそれから歩いて林の中に入っていった。隊長から「ここが33隊の野営地だ」といわれたのは、草ぼうぼうの所だった。ここで10日もくらすのかと思うと、うんざりしてやる気がなくなった。しかし開拓していくと草ぼうぼうの所もなんとか野営地らしくなってきたのでほっとした。前の晩あまりよくねていなかったので夕食後皆ねむいねむいといっていた。

■静岡31隊(浜北1団) 花崎裕士

6:15分函館着。みんな船でねていないようで、うつろな目をしている。だか



炊事当番

らだいたい列車の中でねていた。まあみんな楽しくこられたと思う。「ねむい」と口を揃えてみんなは云う。しかしバスに乗り換えキャンプ地についた時、みんなの目は活気がみえた。

今日の感想「つかれた→ね不足」「早く設営ができてよかった」この感想をきいてもわかるように、みんなつかれていたが、キャンプ地につき、みんなに「さあーやるぞ」という活気がよみがえったことをものがたっている。

7月31日(水) 観察旅行

■静岡32隊 伊藤正人

6時「起床」の声で目がさめる。7時までに開拓と食事を済ませなければならぬので大変だ。7時に今日の日程の観察旅行に出かけるのに食事を6:45にしているのだから先どうなる事か。旅行中バスの中でガイドさんの話が終わると、とたんに大部分のScoutが寝てしまった。まだ疲れが抜けきらないのだろう。14:00昭和新山に到着、記念写真を撮った後、熊園を観覧、大小便のたれ流しなので、あまりのくささにScoutたちは、だいぶん参っているようだった。

■静岡31隊2班 観察旅行出発

今日の7:30にキャンプ地をたつた。或る一部の班では朝飯が出来ずにぬきできたものもあった。しかしそんなことはぼくたちにとって関係がなかった。先づ高速道路に入り、どこかのインターで休憩した。そこでは自動販売機のおつりがでないのもめだが、そこを出たら冬期オリンピック会場をとおってきたので、みんな写真を撮した。その後パイプの中を通っている地下鉄があった。これはとても珍しいそうだ。その後中山峠で休憩した。僕はそこで「そば、をくったがとても体があつたまつた。その次に旅館で昼食をとった。そのそばの船で洞爺湖を一周してもどってきた。そのあと「昭和新山」にいて熊をみたり山にのぼったり、おみやげを買った。帰る時、登別の「地獄谷」へいって岩をもってきたりした。ここには硫黄があるのでみんなビニール袋に入れてもってきた。その後キャンプ地にもどったが、みんな歌を唱いながらきたので、とても楽しかった。

今日の感想「つかれた」「北海道の様子がだいたいわかった」

8月1日(木) 開会式

■静岡32隊 伊藤正人

8月1日 今日が開会式の日。最も、Scout達が感動する場である。会場に入場して会の進行がとてきびんなのに、Scoutたちは目を見はった。

また新総長が決定したのも心に残る思い出となる事だろう。サイトに帰り隊長が「今日の開会式で感動した人」と言わ

れた時、大部分のスカウトが手を挙げた。やっぱりみんなの心は同じなのだろう。

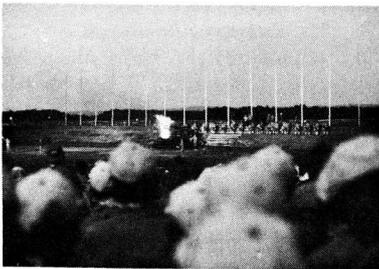
■静岡31隊 (浜北1団) 花崎裕士

8月1日 今日からいよいよJamboreeが始まる。今迄してきたキャンプをもとにして、これからがんばろうと思う。

18:30から開会式をやるが日本中のScoutが集まり実に25,000人集まるそうだ。

今日は開会式だけで終わるが、明日からはパイオニア賞をとるためのいろいろな行事があるのでがんばらなくてはならない。

又今日は晴れたのでみんながんばって設営をした。どこの班でも自分たちのサイトをなわでくくって簡単には入れられないようにしてある。まあ、みんな一生懸命がんばったようすは現地を見れば一目で解ると思う。今日はぐっすり寝て明日の作業をがんばろうと思う。



大営火に参加して

■静岡31隊

29日の夜、青函連絡船ののって本州を去り、大自然というイメージにピッタリの北海道についた。ついた時には雨が降っていたが直ぐ設営に入り、なんとかサイトを作った。

僕達の31隊には三角旗をつけた門を堂々と取付け、入って来る人に解るようにしてある。サイトの様子は1班から4班に分れているが、自分達のサイトをロープで囲み、どこからでも入れるというものではない。しかし「カブレの木」がたくさん茂っていてカブレた人も何人かいる。まあ幸い今日は晴れてみんなの目に活気が帰った。今日から本格的なJamboreeに入るのだが、初日から晴れると後の方にいって雨が降る危険があるのでこのままずっと晴れていて欲しいと思う。

ところで昨の観察旅行だが北海道をぐっての一日がかりのバス旅行だった。それで皆の感想だが「バスの中が楽しかった」「湖めぐりが楽しかった」「弁天島、大島に上陸出来なくて残念だった」「霧がすばらしかった」ということで、みんな北海道のようすなども解ったことで親しみがわいたと思う。又今日は優秀班というのを表彰したのでみんな「今度は僕の班が」と言う具合にがんばって作業をしている。

今日の開会式の時Jamboreeの幕があくわけだが、そうなったからでは、もう

のんびりしてられない。それに炊事当番は5:30起床と云うから夜はぐっすり眠らなくてはならない

8月2日 (金)

■静岡31隊 花崎裕士

8月2日 今日は数々の行事があった。私達静岡31隊では9:00より友情ゲームという「少年よ大志を抱け」と云う一つ一つの字を一人一人がもって色をも別々にしてあつまるというゲームである。大体僕たちの隊の人は8人揃ったが、たった5人だけでできなかった。まあできなかったからといってパイオニア賞をとれなくなるということはないのだから、がんばる様にと隊長もなぐさめてくれたようだった。

これを11:00に終えたが、その間に外人と仲よくなった人もいたようだった。だから昼食はパン、めしだった。さすがJamboreeとあって、ゆでたまご、やカンジュースや肉などがあったので結構ごうせいだと思った。午後からは「レイクサイドハイク」をやった。これはどこの班もいんかんをもらい、大体だれもパイオニア賞の2つの関門を突破したといえるであろう。今日はそのようなことをやってきたので、みんなぐっすり寝ると思う。

8月3日 (土) 曇後晴

■静岡33隊 恵庭班

9:30より33隊及び32隊の少数で、たこ、を先頭にサブ・キャンプ・トレルに出掛けた。各県連の人々は「弥栄」の掛声とともに謝礼を心よくのべてくれた。それが次への隊へ移る時のよろこびとしてくれた。

外国キャンプにても同様に異国人という気持ちもちだすよちもなかった。その後アメリカ派遣隊員2員を含めて、たこ揚げ、を開始、ベテランの次に33隊長、外人2名と次々に、たこ、をあやつり楽しくすごした。

■静岡31隊 花崎裕士

今日は土曜日というのに土曜日という感じがしない。午前中には今日オリエンテーリングAをやるつもりであった……が、班長に教えてもらったとおりに行った所、違う所へ行ってしまう、もう1時間近く出発時刻に遅れてしまったので、サイトへもどって、或る一行は「サブ・キャンプ・トレル」に、僕達は「ジャングル・トレイル」にいった。まあそれぞれみんなパイオニア賞をとるためにがんばっているみたいである。そして昼食のどん汁又は、とうもろこし、を食べ午後の活動にいどんだ。午後には風あげをやった。これはうまく飛んだ人もいたが、大部分の人はあまりよく飛ばなかったようだった。

その後僕たちは「サブ・キャンプ・トレイル」をやり回った。これであとはみんなA.B.Cをのこすだけとなったはずだと思う。まあ明日は日曜日だから宗教をがんばろうと思う。

ところで今日は大営火がある。これはアリーナーでやると思うが、あそこはとても寒いので少々厚着をして行こうと思う。

8月4日 (日)

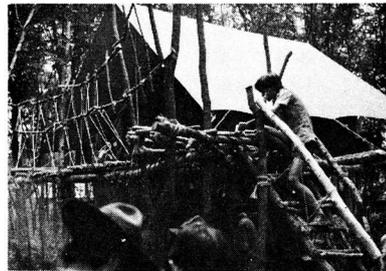
■静岡31隊 花崎裕士

今日は日曜日だ。昨日TVをみなかったせいかに日曜という感じがしない。

ところで昨日迄にパイオニア賞のDからGまでとってしまったので、みんなは切り切っていた。そして今日、朝礼の後すぐ奉仕作業をやった。僕達は木の切りかぶをきって本部にもっていくということであった。これはみんな合格したようであった。

その後すぐに「礼拝」を行なった。これはそれぞれ個人で好きな所へいくことになっていたのだが、大体皆「カトリック」へ行っただけである。

えーと忘れていたが、朝礼のとき、Bの「ディスクッション」をとった。だから皆パイオニア賞がとれるはずである。そして今日は、今からサイクリングをやるが、これは大体6kmをはしるというので、まあ合格のつもりでやろうと思う。



サイト見学

8月5日 (月)

■静岡31隊 花崎裕士

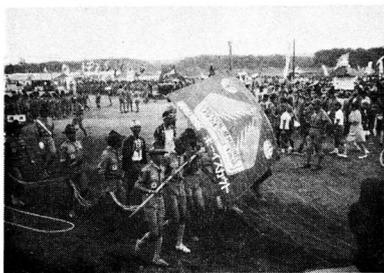
今日は8月5日、月曜日だ。今日は午前中に撤営を少しやった。明日はもう帰るわけだが、なにかもう少し居たいような気もする。まあそこは家に帰れるという嬉しさには変えられないだろう。

ところで今日の午後には大集会をやった。これには天皇(皇太子の間違)もご出席した。その時は各地の芸能等をやった。とてもおもしろかったが、あつかったのであまり楽しくなかった。いずれ今日の夜、撤営をやるが、明日楽になるようにがんばろうと思う。



日本ジャンボリー雑感

浜松地区コミッショナー 三輪悦爾



静岡連盟(浜松勢)の入場行進風景

延々1時間に亘る入場式

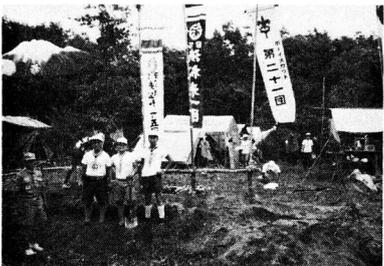
今までのジャンボリーで見られなかったものとして今回の開会式であった。

南は沖縄から、アメリカ、オーストラリア、インドネシア、マレーシア、パキスタン、フィリピン、シンガポール、南ベトナム、韓国、インド、香港の11ヶ国400余名。そして各県連代表100名による入場行進であった。

趣こうをこらし、お国柄を表したものが非常に多かった。ローカルのな味は本当によいものであった。

ハッピーあり、陣太鼓あり、かみしもありで、延々と続く入場行進も非常に印象の深かった事であった。おそらくスカウト達は本州を離れた北斗の地で開会式を充分たんのうしたものと思う。特に100名の代表で行進したスカウトは一生忘れられないものと思う。

総理大臣代理・原田憲郵政大臣、そし



30, 31 隊正面入口風景

て地元・北海道連盟長、今回の野営長・町村金五(自治大臣)は特に支笏湖・札幌を結ぶ広大な原野を駆けめぐらすばらしいプログラムも数多く準備してありますので、心ゆくまで北海道の自然にらせていただきたいと挨拶がある。尚、文部大臣、地元出身議員、来賓多数を迎えての開会式の風景であった。又、地元代表スカウトによる観迎のことばなど、同年代のスカウトとして感銘深く刻み込まれたものと思う。

特に支援隊長(自衛隊)の紹介にはスカウト全員惜しみなく拍手を送った事も昨日の出来ごとのように思う。

観迎アーチ

6NJ、13WJ(朝霧)を想像するし比較にならない、まことにおまつだった観迎アーチ風景であった。

これも致し方あるまい。開期前から、国鉄ストの問題、地元労組による、自衛隊基地内使用反対のノロシと共に非常に心配した一つでもあった。

地元反対同盟の話し合いもつき、反対アーチこそなかったが、その変り観迎アーチも見られない程、静かな町のたたずまいであった。観迎アーチを見かけると云えば主要駅ホームにおける地元地区の観迎アーチぐらいであった。

報道陣の無認識

君、ボーイスカウトって一体何をやるのですか?。天幕の中で生活してどんなことをするのですか?。

これが一部道内報道関係者の質問であ



雑木に囲まれた32隊サイト風景

った。無理解な人が多い変り、熱心な応援者も多数おることに力強さを覚えたのである。

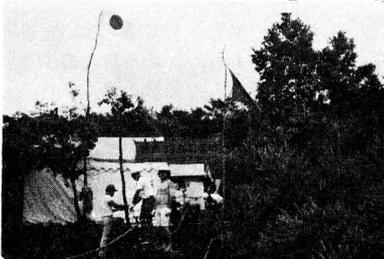
拡大な土地であり、まったく、そうかなあーと、うなづかざるを得ない。

今回の開催によって、何よりも、ボーイスカウト運動の理解者も増えた事であり、今後益々、北海道における此の運動も伸展することであろう。

天候不順

北海道は、何時もこんな天候ですかと話しを持ちかければ、こんな年は、めづらしいですよ!!。本州のように「つゆ」という時がなく、ごく短い夏です。今年のように雨が多く、むし暑いことはありませんよ!!。とのことであった。

朝夕を除いて、むし暑い日々がたしかに続いたものである。その為の天候異変による雨にたたかれたのであった。

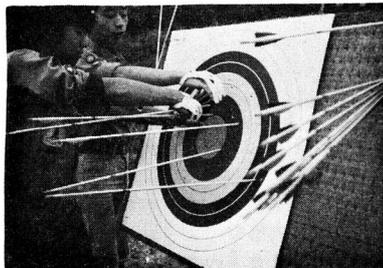


第33隊正面入口

浜松隊到着から雨、雨、又閉会式時における雨、通して雨の多かったジャンボリーと云えよう。

観察旅行と食中毒

観察旅行中、中山峠における一つのハ



アーチェリー風景「静岡県連本部前にて」

プニングは食中毒であった。

スカウト関係者でなく幸だったとは云え誠に気の毒でならなかった。

運転手さんが便所に行ったきり、こないで便所に行くと見ると、下痢、腹痛、嘔吐で手にあてられない始末であった。ガイドさんが運転手さんの背中をさそり一生懸命介抱すれども快方に向はず、運転者には特別食事をとらせると聞いていたので何とも解せないことであった。それに救急車を呼べば、中山峠を下りて××までこいとの事で、そこに救急車が待機しているとのことであった。そんな具合で一台のバスを残し、その運転手さんを私達のバスに乗せて救急車の待機しているところまで走る。何とまあ、のんきなものか?と驚くと共に行政区域外の出来ごとの故か、誠に意に解せないものが重なったものよ?。



中山峠 「この広場でハプニング起こる」

豆記者

ジャンボリー新聞(北斗)の豆記者である派遣隊から1名スカウト通信員を選任して貰い毎日、原稿を提出して貰う事になっている。通信員バッヂを胸に記事集めに飛び歩いたスカウト、そんなものはどうでも良いというスカウト、それぞれがジャンボリーを盛功裡に導いた一人でもあっただろう。

最後まで通信員を選任しなかった派遣隊が6ヶ隊あった。

派遣隊長を通じ選任を依頼したにもかかわらず誠に残念でもあった。

県連広報記録係を担当し、まとまった仕事をせなかつた小生ではあったが、様々な派遣隊の様子を知る事が出来勉強させられたものである。



静岡県連ゲート風景

スカウト達とのコミュニケーション、これは派遣隊リーダーにとって如何に大切かと云う事を痛感させられた一つでもあった。

スカウト大集会

これも見ごたえのあった一つである。一番最初に入場したのが、東海ブロック愛知の桜まつり、揃いのハッピーも勇ましく入場したものであった。

また中国ブロックの島根のオロチ太鼓大きな大蛇をあやつっていたスカウトも大変ご苦労であった。

そして大阪の千成ひょうたんが高々と入場、エールの交換、各都市のなまりを各ブロック毎にスプレヒコールしたのも新しいアイデアであった。一部ブロックの話合いが悪く混声したのも残念であった。

又、何時もながらのアメリカ・インデアンダンス、インドネシア、大韓民国の民族衣裳も華かに目を楽ませてくれた風景であった。

九州・サツマ隼人の陣羽おり、福岡の源平合戦と枚挙に暇がないが、いつ見ても勇壮・闊達でボリュームのあるものであり、スカウト達は一生脳裏に焼きついたものと思う。

而し、なぜか感激が薄らいでくるものを感じ心淋しさを味ったのは、私一人ではあるまいか？。何故だろうと感傷にひたつたものである。

サヨラナヘステバルも終り、明日は閉会式を待つばかりとなった夜中、第3野営区野営管理係のH氏と浜松サイトを皮切りに雑木林の切り跡およびサイトを見学し乍ら、5NJ、13WJを想い出し乍ら一巡したものであった。

第3野営区センターを境に九州県連のサイトが向い合はされている。或派遣隊の前まで来た時である。午前0時を過ぎたのに(6日を迎えた)変ったお祈りが始まったものよとしばしば歩みを止め、その風景を眺めたものであった。

それは、冷静さを欠いた判断により、あらぬハプニングの生んだ結果のもので関係リーダー全員反省をしている風景であった。

「スカウト関係者はお互いを信頼し、自分に厳しく、人には寛大な精神がなければならぬ」と痛感した次第であった。H氏と語り乍ら、明日の閉会式が盛大で



30, 31隊通用門



静岡県連本部食堂 甲田炊事班長 「県コミからエプロン贈呈」

あるよう祈り乍ら我が寝袋に入つたのであった。時に午前3時頃であったろうか。雨の中の閉会式

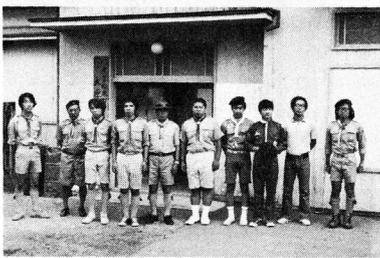
約1万のスカウトは午前11時を廻った頃から、アリーナに続々集ってくる。

雨もだんだんひどくなり、横なぐりの雨になる。殆んどスプ濡れであろう。静岡県連盟本部マーキーも、スカウトで一杯である。尚、入りきれずに食堂マーキーまで、すぶ濡れになったスカウトの為にマーキー内でたき火が殆り少しでも乾燥させる事で勢一杯のありさまであった。

時に12時、第1陣の帰りのバスが到着するや、どしゃ降りの中をバスに向かって1団が消えてゆく。ズボンも上衣もスプ濡れでバスに乗ったのであろう。雨具を着用していても殆んど用を足さぬ荒れであった。

1台1台雨の中からバスが消えてゆく姿を送り乍ら、スカウト達よ、6NJで体験した事を充分、スカウティングに、今後の生活の中で、生かし、たくましく成長するよう祈つたものであった。

木曾路の旅 浜松第15団RS隊長 原口 芳彦



大原公民館前

木曾路へ行きたいと最初に思い立ったのは今年の春であった。その後、いろいろと曲折はあったが兎も角、数冊の「ガイドブック」と5万分の1の地図を購入して、日毎毎に読み且つ眺め乍ら2カ月程経過した。日本ジャンボリーの日程も刻々と迫り、地区も何かと忙しく計画は遅々として進まなかったが7月上旬に三輪地区コミッショナーと1泊2日にて下見を行い関係町村各教育委員会の方々と御会いし、必要事項の御依頼をする事が出来た。

参加人員は不幸にして意外と少なく10名に満たなかったのは残念であったが8月10日夫々の計画通り浜松を出発し13日無事帰浜出来てまずまずであった。

参加者及び参加指導者は次の通りである。

- 第1班 鈴木謙二(15) 寺田 (6) 浦山 (14) 安富 (14)
- 第2班 木本一夫(16) 石津雅章(16) 増谷定大(16) 伊藤孝(18)
- 地区コミ 三輪悦爾
- 地区副コミ 平野 武
- 〃 新井信一(御子息代行)

- 15団RS隊長 原口芳彦
- 日 8月10日 浜松発→南木曾町妻籠松坂屋泊
- 〃 11日 木曾福島町大原公民館泊
- 〃 12日 檜川村費川公民館泊
- 〃 13日 帰浜

木曾路はいつ旅しても素晴らしいと思う。そこには失われつゝある日本のふるさとがあり、日本人の郷愁が漂う。

古い民家、山峡の小径、美しい溪流等々、今回の旅がどれ程ローバー、シニアにとってプラスになったかは不明である。然し乍らRS、SSの存在が麗ろになりつゝある日本のBS活動において少く共前向きに取組んで行く事こそ大切であろう。

彼等の知らぬ間に日は移り時が流れている事を思えば、そのこと自体を知らせる為にも、又連絡を絶やさない事によって参加、不参加は別として多少なり共、自覚を持って貰う事により、日々の行動の規

律に寄与する事があるならば幸せであろう。

国道19号を木曾川づたいに長距離トラックが念って走り過ぎ、カッコいいGTが若者を乗せて走り過ぎる木曾路に、かつて文人、墨客達が、そして大名が、馬子が「かごかき」が夫々の想いを秘めて通つたであろう悠久の昔と現代とを対比する時、我等は何を念じ何を学ぶべきか？

永遠の時の流れと庶民生活の不変さとむなしさのみを感じる。

日々是好日、その様な想いに至る日は何時のことか、只黙々と毎日を前向きに進むことにのみ人生があろう。

ではRS、SSの諸君、又来春素晴らしい旅をして心の糧と致しましょう。

さようなら。



木曾路最古の旅籠「こめや」

第6回日本ジャンボリー会場と交信して

浜松第12団々委員 日本アマチュアクラブ JH2AL1局 小粥慶次郎

7月29日に浜松を出発したBS隊は今頃青函連絡船で青森を出航し、一路北海道を目指して航行中だろうと見当をつけてJA8(北海道地区)のアマチュア無線局を探してみた。まず7MHzの電信バンドを一順……JA8局は一局も入感なし、続いてホーンバンドで丹念に一順これ又JA8局の入感なし、繰返し繰返し約3時間。半ば諦めかけた22時頃、電信バンドでJA8YMO局が、どこかの局とQSO(交信)中、まもなくファイナル符号でQRT(送信の終了)こゝとばかりに呼んで見た……かすかに応答の電信音、RST559のリポート(RはREADABILITY、了解度が1、2、3、4、5、5が最高、SはSIGNAL STRENGTH、信号強度で1~9、9が最高、TはTONE、音調で1~9、9が最高)まああの感度S SAPPOROのクラブ局らしい。欧文でのリポート交換のあと、構わず和文でジャンボリー会場の特設アマチュア無線局のコールサインを聞いて見た「JH8BSJ」らしい事を知り、運用時間も、朝の9時から夜の9時までだと云う事をつきとめたが、その日はもうすでに運用時間が過ぎていて残念ながらQRT(閉局)次の日、8月2日、今日こそはと仕事を早めに切り上げて17時頃よりワッチに入る。周波数21,360MHz附近のホーンバンドでJH8BSJのコールを聞いた時……そして「JH2AL1こちらはJH8BSJ 5AND5で北海道は千才原のジャンボリー会場に入感しております、どうぞ」……と来た時は、やっと届いたとばかりに、私達の代表、浜松12団のリーダー三輪先輩と望月先輩に伝言と次の日の交信スケジュールを一方的にしゃべりまくった。しかし、その返事のいかにもそっけなく、そして冷たく、あまりにも事務的な言葉が返って来た。「次の方がお待ちですので、レポート交換とカード発行だけで失礼します」と云

うのです。仕方なく浜松隊の元気を活躍を祈る旨のメッセージだけでも届けてと食い下り、その日はCL(閉局)次の日も21,360MHzにて4時半頃からワッチに入ると21,250MHzから21,750MHzまで行ったり来たり、その間混信あり、空電あり、約2時間そのノイズの中から、かすかに、ほんのかすかに「こちらはJH8BSJただ今からJA8エリアからJA9、JA8、JA7、JA6、JA5、JA4、JA3、JA2、JA1と各エリア順に順番に交信サービスに入ります」と云う、あの冷たいオペレーターの声、そしてJAこの方どうぞ、と云われるまでの長い事、長い事、その間、母親らしい人の我が子の安否を気遣う声、そして伝言、留守隊の隊員及びリーダーの励ましのメッセージ等々を聞きながらしばし、ジャンボリー会場の風景、そして、そこに展開されるドラマを頭に書きながら、もしそこに自分の息子が参加出来て行っていたら、どんなに誇らしく感じただろうと、チョッピリ私情を挟みながら、しばし空腹を忘れて聞き入った次第です。その日も5AND5でSAPPOROに入感、浜松隊よりの連絡事項は何もなしとの事、こちらからは又々同じく元気でやる旨伝言する。この間、オペレーター交代3人くらい、その誰もが超ベテラン、早々で事務的な、その能率のよい事、やはり、このくらい事務的で冷たく感じるくらいの超スピードデー-QSO(交信)でなければ、とても日本国中の相手局は捌き切れないのだろうと、その冷たさも、うなずけるような気がしたものです。

次の日は日曜日、たまたまフィールドデーにも当り、我々クラブ(浜松電信クラブ)でも、どこかに行こうか、と云う事で前々より計画し準備していたので、この機会にジャンボリー会場とQSO(交信)出来たらいいなあと期待して行った所、やはり牧の原台地のロケーション

は素晴らしいフィールドQSOには、もってこいの最適地。午前中に電信で日本国中/エリアから各エリアまでを完全征服、この分ならと21,360MHzホーンバンドに切り替えたとき「CQ、CQ、CQこちらはJH8BSJ北海道ボーイスカウトジャンボリー」……時は11時30分、浜松からの派遣隊員だでも良いから、とにかく話をしたいと云ったところ、さっきまで浜松の井の口さんが見えられたが今は席を外しているとの事……。12時から30分間浜松から伝える事があるから、その場に居てもらいたい旨のみ早めに昼食をとって待機、12時ジャストにスイッチON、ほとんど同時に「JH2AL1こちらはJH8BSJ」と呼ばれ、びっくりして出て見ると井の口先輩の元気な声、続いて中島さんも出て来られて現地の状況報告。前半は小雨もようの悪天候で、4日目あたりから、やっと日の目を見られた件、4日目にしてやっとQSO(交信)出来た件、帰りのスケジュール等々、またたく間に30分ほど過ぎてしまい各所へのQSP(中継伝言)の約速等まだまだ名残りはつきねどファイナルとなったのです。その後、私達クラブメンバーも、それぞれJH8BSJとのQSOとQSL(交信カード)の交換を約束し、私に真似て弥栄を唱え、和気あいあいの内にCL(閉局)帰りの車の中では、さすがに疲労をおぼえ私もだいたいぶ年をとったのだなあと感じた次第です。

有意義な日を過ごした充実感は快い疲労となって、いつしか眠りこけたことも付けたしておきます。私はハムを始めてから約5年になりますが、この日くらい意志の伝達コミュニケーションの重要性、またハムによる意志の疎通を感銘深く味わった事はありません。ハムに対する一般の人達の一層の御理解を仰ぎたく存じます。私も微力ながらハムを通じて社会の為に尽したく、又終生の趣味として続けて行きたいと思っております。 弥栄

浜松第6団カブ隊発足

快晴に恵まれた9月8日、9時30分、浜松市八幡宮境内に於てボーイスカウト第6団カブ隊の結成式が行われた。

認証式は内田県コミより近藤団委員長に承認書伝達、つづいて隊員の宣誓等行われ、新しいカブスカウトの誕生をみる事が出来た。

なお当日は友隊の参加者も多かったが特に浜松第12団カブ隊の演技は結成式に華をそえ、無事終了することが出来た。

お祝いの言葉

浜松第15団 西尾友亮

もくもくと盛り上げる入道雲をながめながめながら、水しぶきの中での海水浴や



第6団カブ隊結成式

すずしい木かげで植物さい集と楽しくすごした夏休みも、あつというまにすぎでしまいました。今月から、いよいよ第二学期が始まりしゅん見まちがえるほどまっ黒に日やけた友だちと久しぶり顔を合わせ今学期も、しっかりとがんばろうとちかい合って帰たくした時、父から第

6団のカブ隊の発隊式の話をお聞きしました。また、新しい友だちが出来ると思うとなんとなくうれしくなりました。

6団のみなさん、発たいおめでとうございます。ぼくは3年前に第15団のカブ隊に入りたいし、今3組の組長として協力のせいしんをやしなう隊集会やたすけ合いの場となる組集会にいかにして良いスカウトになれるか、みんなと研究しています。6団のみなさん、これからはおたがいに、れんらくし合いながら、しっかりと自分自身の考えをもち、すゝんで物事にとり組んでいくカブスカウトになるよう、努力し合ひましょう。かんたんではありますが、お祝いのことばといたします。

浜松第7団合同野営報告

B S 浜松第7団少年隊長 坪井 愛三

7団は8月24日～26日、2泊3日の野営舎営を合同で周智郡春野町宮川「青少年自然の家」で行いました。

7・7強雨による被害処所の25日再度14号台風による崖崩れと橋の流失寸前は無事通過帰浜出来た事。

1. 団長の早期「決断」スカウトの安全第一。
2. 春野町役場、自然の家当直者の迅速な連絡。
3. 自然の家当直者の温い親切。
4. 遠鉄バスの迅速な配車。
5. 各隊リーダー父兄の協力。

等下記礼状を添えて報告致します。

礼 状

三指

16号台風も無事通過し涼しい初秋の候となりました。

私達、浜松第7団ボーイスカウト隊、カブスカウト隊は8月24日から2泊3日の予定で宮川青少年自然の家にお世話に成って居りました。

ボーイ隊は近くの林の中に天幕野営を実施しており、24日夜半より14号台風の影響に依り雨と成りました。

25日は朝からとうとう大雨となり、朝食の炊飯はなんとか用意することが出来ました。雨が降り続く中で、リーダー、スカウト共下着まで、ずぶ濡れとなってしまいました。

私はスカウト達の身体が心配でもあり又、昼食の炊飯もとうてい出来ない状態ですので、自然の家の当直の方に雨が止むまでの間をお願いに参上しました。

当直の方は私の話以上に、自分の事の様に

心配下さいまして他の宿泊中の少年団の方に接渉下さいまして、二室を気持ち良く開放して下さいました。

ずぶ濡れの20名のスカウトを無事収容する事が出来ました。又、午後1時なのに食事もしていない私達の為、炊事場のお世話もして下さい2時には全員遅いながら温かい昼食を無事終ることが出来ました。当直の方はその間に遠方にお住いの風呂場の係の方を呼出して、ずぶ濡れのスカウトが風邪をひいてはと言って風呂の用意までして下さいました。

2時食事中の私の所にリーダー集合の伝言が団長より来ましたので集合しますと、役場よりの連絡で7・7強雨の際の崖崩れの現場、大居、宮川間少しづつ流れ出して居ると知らせがあったとのこと。子供達の耳に入れず知らせて下さったのでスカウト達の混乱も無く、ボーイ隊は強雨の中キャンプの撤集に、カブ隊も昼寝中のスカウトを起こすことなく約1時間で引揚準備を完了することが出来ました。3時、各隊長よりスカウトに14号台風の接近と崖崩れを説明し30分以内に引揚げ準備をする様伝えました。

3時30分緊急連絡により遠バスは天竜車庫より急ぎ廻してくれたバスにスカウト50名を乗車させ出発することが出来ました。リーダーは取急ぎ各室の整理を不十分ながら実施し、当直の方の見送りを受け4時、挨拶も早々に出発してしまいました。崖崩れの現場を通る時には、山上より土砂が流れ出して通路の近くまで来ており、川岸に作った応急道路もあと数種で水の中に入ろうとして居りました。

横なぐりの強雨の中、私達7団スカウト50名を乗せたバスもトラック、乗用車5台も6時、無事浜松に着く事が出来ました。此の時間には浜松地方は暴風雨圏内に入り15mから20mの風が吹きまくって居りました。

迎えの家族の顔にも安心の笑みが浮んで居ました。

2泊3日の野営が1泊で帰って来ましたが常に出来得なかった。強雨と暴風中の撤集と言う最悪の体験と数分という迅速な行動の訓練が完成できました。

私達リーダーが無事スカウトを両親にお渡し出来たのも役場からの迅速な連絡と当直者の適切なアドバイスがあったればこそと感謝して居ります。特に私達ボーイ隊では当直の方の応急避難に対する気持ち良い協力とずぶ濡れのスカウト達の為強雨の中、風呂まで用意してくれた親切は忘れる事が出来ない思い出です。

緊急撤集のためスカウト達を入れてやる事は出来ませんでした。その温かい思いやりは心地良く私達の汗と疲れを洗い流してくれた事を申し添え御礼の言葉とします。

来年もぜひ、その温い親切に甘えに行きたいとリーダー一同、その日を楽しみに待って居ります。

乱筆乱文ですが皆様方の協力を心から感謝申し上げ春野町の弥栄をお祈り申し上げます。

昭和49年9月3日

春野町長殿

第6回日本ジャンボリー

浜松第7団 板倉 正久

一人に自分の氏名と住所を書いたが、日本各地から来ていたのであった。

8月3日、この日は18時から大宮火があった。ぼくは身体の調子が悪かったために途中からやってきた。いろいろな演技があって楽しかった。

8月4日、この日は日曜日のために宗教行事が行われた。言っていることは解らないが、何となくわかるような気がした。それが終わったら、ぼくたちの班では接待を行なった。相手は、ぼくたちパンダ班の班員の西尾君が友情ゲームで知りあった高知の人たちである。結構楽しいものであった。

8月5日、この日は撤営であったが、ぼくたち(魚つりに行った人)は午前中は千歳川に魚つりに出かけた。みんな行きたかない口調で「きょう魚つりをやるのか」といった口調である。

8月7日、18時ごろに浜松駅に帰ってきた。浜松駅を出て9日を過ぎて帰ってきたが、9日間なんかすぐたつたみたいであった。

出発の前日(7月28日)この日の夜は不安と喜びの混わりでなかなか、ねむることが出来なかった。ことに北海道とは話を聞いたことだけで来てことがないだけに、どんな所かと道中絶えまなく想像していたのである。

7月30日、昼まえに北海道の千歳原の第6回日本ジャンボリー会場についた。その会場自身はまとものものであるが、ぼくたちの住むところは木の中でまじく密林の王者ターザンと同じような生活をさせられるのかと思うと背ずじがゾッとするのであった。一応眠るところと食べるためのところは、この日になんとかできたみたいであった。

7月31日、この日は観察旅行にでかけた。北海道南の一部をみる事ができた。北海道というところは、あんがいと自然に恵まれていて水が青々としている所で公害という言葉がだれの口からも出てこないような所であった。昭和新山の近くでアイヌ人とかアイヌ人の生活必需品みたいな物を見たり、ヒグマも見た。いろいろな山などの言い伝えも聞いたのであった。

8月1日、この日は開会式の日であった。開会式は18時30分から行われた。だが、少人数の人たちであるが、静岡30隊の本隊からははぐれて照明の裏にいたのである。その中にももちろん、ぼくも入っていた。

8月2日、この日は午前中は友情ゲームが行われた。ぼくは全部で約1時間ぐらいしてゴールに入った。それからメンバ

